NY エッセイ 28

中瀬有紀

「机上の空論」予防法



The Liar by Pierre Corneille at The Fifth Floor Theatre: Adapted by David Ives , Directed by Paul Mullins, Set Design by Anna Yates, Costume Design by Mira Veikley, Lighting Design by Yuki Nakase

「照明デザインは現場で学ぶもの」とは、照明デザインを職業にしてからずっと信じている教訓です。より多くの現場に携わり先輩の技を見て学んでいます。その一方で、現場の外で行う作業の重要性を差し置くわけにはいきません。特にアメリカでは、書類制作が非常に重要な照明業務の一つと考えられています。

理由は二つあります。一つはデザイナーとエレクトリシャンの役割分担が明確であるためです。デザインの意図を口頭で説明しなくても照明作業を可能にするための書類が必要です。もう一つは、劇場を変えて公演することが稀ではないためです。例えば、ブロードウェイの作品はブロードウェイ劇場で上演するまでにリジョナル劇場やオフ・ブロードウェイ劇場での試作を繰り返します。アメリカの照明家はデザインを書類化するのに非常に慣れています。

今回は数ある書類の一つ、ワークシートについて書きます。ワークシート制作とは図面上の各器材のフォーカスを書面に起こす作業です。照明図面に器材を書く（またはシンボルをインサートする）前に、使用器材それぞれの光がどのように被写体を照らすのかを平面図と断面図で検証します。その狙いは照明図面を「机上の空論」にさせないためであり、全ての器材の方向性や角度を机上で確認することで各器材の意味と目的を明確にし、フォーカスを速め、変更や追加を最小限に抑え、現場入りしてからの時間（＝支出）と活力の無駄な消耗を防ぎます。

ワークシート制作は、まず断面図において被写体の高さと光源の高さ、そして被写体と光源の距離を元に光のビームを書きます。次に平面図に移り、被写体の高さにおける各器材の投影範囲を書き、システム（例えばマエメ明かり全ての照明器材）にすがなく必要範囲を均等に照らすことを確認するマップを作成します。CAD上でワークシート制作をすることもありますが、紙と脳をより深く結合する手書きの方が役に立ちます。

照明デザインは照明家として、また人間としての経験値が大きく影響します。経験は現場で何が問題になるかを予測させますが、光は常に物理であり、問題解決法の模索は経験値に関係なく全ての照明デザイナーに等しく与えられる課題です。照明図面を「空論」にさせない秘訣はワークシート制作です。